

学校法人 日本芸術学園

日本芸術専門学校

2019年度 学校関係者評価 報告書

目次

- I. 教育理念・目的・人材育成像・・・P1・2
- II. 学校運営・・・・・・・・・・・・P3～7
- III. 教育活動・・・・・・・・・・・・P8～18
- IV. 学修成果・・・・・・・・・・・・P19～20
- V. 生徒・学生支援・・・・・・・・・・P21～25
- VI. 教育環境・・・・・・・・・・・・P26～30
- VII. 生徒募集・・・・・・・・・・・・P31
- VIII. 財務・・・・・・・・・・・・P31
- IX. 法令等の遵守・・・・・・・・・・P32
- X. 社会貢献・地域貢献・・・・・・・・P32
- XI. 国際交流・・・・・・・・・・・・P33

I. 教育理念・目的・人材育成像

評価項目	適切・・・4	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2	不適切・・・1
1-1 学校の教育理念・目標の設定	4 (3名)	3 (2名)
	2 (2名)	1 (0名)
	平均 3.1 点	
委員コメント ・教育理念や目的としては良いと思うが、教育と理念の2つのミッションが一読しただけだと内容が伝わりにくい。 ・目標としてはいいと思うが、いつその教育をしているか分からない。 ・Precious Audition の開催や新規コースの開講等でほぼ適切に行われていると感じる。 ・夢を抱いて本校に入学してきた学生達の心の土台になっている。 ・理念に対して目標という意味では共感できるが、実際として学校として取り組んでいるというよりも、学生や各講師に任せっきりになっている部分を感じる。もう少し積極的に理念を遂行するため学校としての取り組みを期待したい。 ・端的に示されており、一貫性を持った理念であると感じる。		

評価項目	適切・・・4	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2	不適切・・・1
1-2 時代、社会、学習者のニーズへの適合	4 (2名)	3 (2名)
	2 (3名)	1 (0名)
	平均 2.9 点	
委員コメント ・「本物のエンターテインメント」がどういう事を指すのか分かりにくい。悲劇的内容の物も「エンターテインメント」であるともっと伝わると良い。基礎力やスキルを身につける為には授業コマ数が少なく感じる。 ・学校が時代に合わせて1年ごとに大きく変化しなくても良いと思う。 ・実際にプロの現場で活躍する人物を指導者として招き、ほぼ適切に行われているように感じる。 ・プロとして実際に活躍されている講師の方々の授業はとても刺激になり、学ぶことが多く、目標として前に進む力になっている。 ・需要に対して適合性はあると思うが、プロになるための教育に対しての一貫性は少し弱い気がする。広く浅くではなく、広く深くなる様に期待したい。 ・時代に応じた実践的なカリキュラムにより、いかなる状況においても即座に対応できるようになっており、十分に適合しているといえる。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1			
1-3 定期的な点検、見直しの実施（時期・方法・組織）	4 (2名)	3 (4名)	2 (1名)	1 (0名)	平均 3.1 点
<p>・見直すべきところは改善して欲しい。</p> <p>・特に見直しの必要がなくとも、点検・見直しの時期については決めておいた方が良いと思う。(年度末や2年に1度など)</p> <p>・見直す必要はあるが、見直して変更になった点など年度の始めに伝えて欲しい。</p> <p>・期間内で受講者の状況に合わせて授業内容の見直しをする等、ほぼ適切に行われているように感じる。</p> <p>・教育現場に一番近い先生方が敏感に感じる事だと思うので必要な時に行っていただきたい。</p> <p>・一年度一回の見直しではなく、半期に一度見直しても良い気がする。今回の評価委員会の開催時期を年度末に合わせてではなく、もう少し一年を通したものにしても良いのではないか。</p> <p>・職員会議は定期的に行われているので、適宜の見直しで問題ない考える。</p>					

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1			
1-4 教育理念・目標の教職員・生徒・学生等への浸透方法、浸透度	4 (2名)	3 (5名)	2 (0名)	1 (0名)	平均 3.3 点
<p>委員コメント</p> <p>・もう少し幅広く認知度が高められると良い。</p> <p>・学校 HP から Precious Treasure 教育以外は確認することができなかった。</p> <p>・一方的な発信で終わってしまっている印象はあるが、学生に質問した際、学生が認知していたのでほぼ適切に行われているように感じる。</p> <p>・学校には何かの行事がないと足を運ばない保護者の私でも知っていた。</p> <p>・1-1 に同じ、浸透という意味でも、理念遂行に対しての具体的方法の共有が望まれる。</p> <p>・ホームページにも掲載されており、広く浸透していることが感じられる。今後は更なる定着に期待したい。</p>					

II. 学校運営

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-1 役員の選定の基準の適正さ	4 (3名) 3 (3名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.3 点
委員コメント <u>・各方面から偏ることなく役員を選出し適正に行われている。</u> <u>・承認を取ることは良い事だと考える。</u> <u>・適正に行われている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-2 理事会、評議員会の開催状況	4 (4名) 3 (3名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.6 点
委員コメント <u>・事前計画をしっかりと立てられており、計画に従い評議員会も開催されているので、適切に行われていると感じる。</u> <u>・改正事項がある時は、理解する為にも開催が必要である。</u> <u>・適正に行われている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-3 寄附行為の定期的な点検と見直し	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・法改正に伴い 2020 年 4 月 1 日付で改訂予定でもあり、ほぼ適切に行われていると感じる。</u> <u>・改正後に問題点が見つかる時があるので、見直しは必要。</u> <u>・定期的に行われており、適正である。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-4 事務組織の明確化	4 (3名) 3 (2名) 2 (2名) 1 (0名)	平均 3.1 点
委員コメント ・周知面での対応がされていない為、組織図の存在を知らなかったが、この点以外は適切に行われていると感じる。 ・特に問題はない。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-5 学校運営会議、教育会議などの定期開催	4 (2名) 3 (2名) 2 (1名) 1 (2名)	平均 2.6 点
委員コメント ・職員の入れ替わりや、制度の変更が多く、講師に伝わりにくい。特に担当教職員の入れ替わりがここ数年激しかった。また講師の会議報告会等、年に1度でも良いので設けてほしい。 ・会議をしているにも関わらず各職員の話す内容が統一されず困ることがある。 ・メールでの配信等、都度案内があるので適切に行われていると感じている。 ・望ましいと考える。 ・教職員と講師、そして学生との情報共有がもっと潤滑に行われるといい。 ・学園全体で緊密な連携が図れている。全教職員への共有が徹底されると、より円滑に進められるかもしれない。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-6 各会議の内容と適正さ	4 (3名) 3 (3名) 2 (0名) 1 (1名)	平均 3.1 点
委員コメント ・各会議の記録をみて改善する体制を維持してほしい。 ・議事録を取って記録されているので、適切に行われていると感じる。 ・後から見直すことが出来るので必要。 ・各会議の内容を知らないのでは適正かどうか判断できない。 ・適切に行われている。		

2-7 諸規程の制定 は省略させていただきます。

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-8 諸規程の整備及び職業安定所への届出	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・顧問社労士に相談するなど、ほぼ適切に行われている様を感じる。</u> <u>・適切な処置を講じている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-9 諸規程の定期的な見直し	4 (3名) 3 (3名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.3 点
委員コメント <u>・講師にも必要な点は明確に伝えてほしい。</u> <u>・働き方改革に伴う見直し等、適切に行われている様を感じる。</u> <u>・学校が休みの時の週末ライブやイベントにも先生が足を運んで下さっているときがあり、「特別手当はあるのだろうか?」と心配になったことがある。</u> <u>・職務権限について、各職位の責任と権限にもう少し透明性が望まれる。人員不足のためではあると思うが、担当者の入れ替わりが多い。</u> <u>・迅速な対応で適切に行われている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-10 学則等の定期的な見直し	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・新しい学科が増えるなど大きい見直しの際は、講師への情報共有も必要と感じる。</u> <u>・2021年度以降での変更を予定している等、適切に行われている様を感じる。</u> <u>・適切に行われている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-11 学生及び文書、備品等を守るための防犯対策の整備	4 (2名) 3 (4名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・今後同じようなことが起こらないようになると良い。</u> <u>・備品の所在、管理は一部不足していると感じる。</u> <u>・SECOM 加入や鍵付き保管庫で保管など対策を適切に行っている様に感じる。</u> <u>・校内での紛失や盗難があるのはとても残念なこと。管理強化も必要。</u> <u>・適切な対応である。今後は予防策として、巡視、点検の強化が求められる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-12 各教職員の防犯に対する認識の徹底	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・日常運営中の防犯についても、認識の徹底が必要不可欠と思う。</u> <u>・校舎内だけでなく外も点検した方が良い。不法侵入などの危険性もあるので、点検を今後も徹底してほしい。</u> <u>・今後セミナーに参加するなどの対策も取っており、ほぼ適切に行われている様に感じる。</u> <u>・毎月細かく点検されており、適切であると感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-13 学校安全保健計画、消防計画の作成	4 (0名) 3 (4名) 2 (3名) 1 (0名)	平均 2.6 点
委員コメント <u>・1日も早いマニュアルの改訂と共有が必須。</u> <u>・しっかりとやってほしい。</u> <u>・教職員間での共有が不十分との事で、周知面での改善が求められる。</u> <u>・関東直下型地震も噂されている。学生や先生方の身を守る為にも早急に見直しをしていただきたい。</u> <u>・最近はウイルス感染によるリスクもあるので、早期の改定が望ましい。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-14 個人情報保護法の遵守	4 (5名) 3 (2名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・職員各々のモラルに依存する側面もある為、難しい問題ではあるが、対策は適切に行われている様に感じる。</u> <u>・適正に行われている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-15 セクシャルハラスメントの防止、対応マニュアルの作成	4 (2名) 3 (5名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.3 点
委員コメント <u>・どの学科も授業内で身体的接触が出てくるので、一般の教育と同じ枠にはめ込みすぎると少し問題があると思う。学生・保護者・各教職員もその点の理解が深まると良い。</u> <u>・教職員のみならず講師についてもマニュアルに組み込んでも良いのではないか。</u> <u>・指導が全てハラスメントとは思わない。</u> <u>・職員各々のモラルに依存する側面もある為、難しい問題ではあるが、勉強会を行う等対策は適切に行われている様に感じる。</u> <u>・あらゆるケースに対応できるよう、勉強会などの取組は定期的に継続し対策していくことが望ましいと考える。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
2-16 相談窓口の設置と適切な対応	4 (4名) 3 (3名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.6 点
委員コメント <u>・顧問弁護士との相談窓口を設ける等、対策は適切に行われている様に感じる。</u> <u>・適切に行われている。</u>		

Ⅲ. 教育活動

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-1 教育理念、目標の反映	4 (1名)	3 (5名) 2 (1名) 1 (0名) 平均 3.0 点
委員コメント <ul style="list-style-type: none"> ・具体的にどのようにカリキュラムに反映されているのかということが不明瞭。 ・コースに合った充実したカリキュラムを今後も多く提供することが教育理念、目標の反映に繋がると思う。 ・Precious Audition の開催、特に「変革の教育」に当たる部分かと思うが、新規コースの開設等時代に合わせたものを学生に提供している様に感じる。 ・挨拶が出来ない人がまだまだ多い様に思う。 ・カリキュラムという意味では創意を感じるが、理念遂行のための工夫が欲しい。 ・実践的で専門性の高いカリキュラムが揃っており、総合的にみて3つの教育理念に沿っていると感じられる。 		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-2 カリキュラムの構成 (教養科目と専門科目、座学と実習など)	4 (2名)	3 (2名) 2 (3名) 1 (0名) 平均 2.9 点
委員コメント <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得が卒業後の助けとなるようになれば尚良い。 ・専門科目(演習)中心の構成になっているが、知識のインプットに特化した座学を設定した方が、より内容の濃いカリキュラム構成になると思う。核となる科目は、学年別で設定し2年間継続でステップアップできる構成が望ましいと思う。 ・講師陣は充実していると思う。 実際に活躍している人物による演習授業となり学生に十分な内容を提供している様に感じる。 <ul style="list-style-type: none"> ・時間割等の兼ね合いで、受けたい授業が受けられない場合がどうしてもあるため、工夫ができると良いと思う。 ・講師のレベル、専門生の高さはさることながら、バランスのとれた構成である。 		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-3 カリキュラムに対する学生・卒業生の評価	4 (1名) 3 (4名) 2 (2名) 1 (0名)	平均 2.9 点
<p>委員コメント</p> <p>・ストレートの授業、台詞を覚えるような選択授業が少ない。学生のコース選択のケアができていない。入学後にコース選択の変更を早めにしてほしい。</p> <p>・ミュージカルの授業では評価できる。その他は考える必要がある。大学のように、講師を活用し、授業以外で相談できる環境があると良いのではないかと。バリエーションが大事。</p> <p>・ミュージカルだけ考えれば評価できる。レベル別のレッスンが必要。歌はレベル別があるが、ダンスにも入れてほしい。</p> <p>・その都度、毎年変えている点を評価。裏方でも演技が出来ないと難しい。裏方に回れるカリキュラムにするといいたくない。</p> <p>・出席する人数が少なすぎて、作品作りなど苦勞する場面があるので、その点も改善策を考えてほしい。</p> <p>・ミュージカルの授業で考えれば、2年間で滑舌がしっかりするなど基本が身につけてほしい。入口は何でもよいが、何かを身につけられるようなカリキュラムが出来ればよい。</p> <p>・ニーズを敏感に察知しカリキュラムに反映させており、学生の意欲向上にも繋がっていると考えられる。</p>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-4 カリキュラムの定期的な点検及び見直し	4 (1名) 3 (2名) 2 (4名) 1 (0名)	平均 2.6 点
<p>委員コメント</p> <p>・ミュージカルに力を入れていることは良いことだが、ミュージカルに必要なスキルが足りない学生へのケアが必要と感じる。またスレートプレイを選択する学生が少ないように思う。</p> <p>・定期的な点検は半年に1回は行うことが望ましいと感じる。また学生アンケートだけでなく講師の意見を考慮すべきである。前項にもあった時代社会のニーズに適合するカリキュラムを編成する上で業界関係者(企業)の意見も、第三者視点で取り入れる必要もあると思う。</p> <p>・時代に合わせた授業を開講するだけでなく、学生からのアンケート回答を基に講師を検討する等、適切に行われている様に感じる。</p> <p>・実績のある講師だとしても授業の進め方に不満があった。実績のある講師といえども授業の進め方が適切かどうか等定期的な点検が必要だと感じる。コースメインになる授業数が少ないと思うのでもっと増やしてほしい。</p> <p>・講師の意見も、もっと織り込んでほしい。</p> <p>・教職員間で慎重に検討されており、適切である。</p>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-5 実習システムの現況と今後の見直し	4 (1名) 3 (1名) 2 (5名) 1 (0名)	平均 2.4 点
<p>委員コメント</p> <p>・正直、劇団等ではインターンシップをやるレベルがどうか不明だが、今後劇団等でも短期のインターンシップ実習等連携できないかこちらも考えてみたい。</p> <p>・エンターテインメント業界でのインターンシップは難しい所もあるかと思うが、実際の現場を見学、体感することは良いことなのでぜひ検討をしていただきたい</p> <p>・実習というシステムはいいが文化祭や卒業公演で被ってしまうと迷惑がかかるので、そのあたりを管理してほしい。</p> <p>・インターンシップなどの実習システムの連携が乏しいとの事だが、具体的な対策がなされていない為、対応が急がれるように感じる。</p> <p>・実習システムにより、通常授業に参加できないなどの弊害をどう改善するかが課題。</p> <p>・実習のシステムが整えば、学生の視野が広がり、より良い進路の選択にも繋がると考えられる。今後に期待。</p>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-6 シラバスの作成・学生への提示状況	4 (4名) 3 (2名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.4 点
<p>委員コメント</p> <p>・どこの学校でも授業計画は立てるものなので良いと思うが、実際は受講する学生の人数やレベルによって必ずその通りには行かなくなってくる。正直あまり細かい枠での授業計画はあまり有効的ではないと思う時が多い。</p> <p>・授業計画の立案時に、学校側よりニーズの説明がしっかりとされており授業計画の調整要望もあったため適切に行われている様に感じる。</p> <p>・学生たちには周知されています。</p> <p>・シラバス作成時の目標を達成しきれないところがある。</p> <p>・事前にニーズを把握した上で設定しておくことは効率的であると感じる。</p>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-7 教育方法の工夫・研究の取り組み	4 (1名) 3 (5名) 2 (0名) 1 (1名)	平均 2.9 点
委員コメント <u>・行っていることはとても良いと思う。</u> <u>・もっと1人ひとりの面談の場を設けた方が良いと思う。それぞれ考えていることなど聞いてあげた方が良い。</u> <u>・学生の希望進路に合わせた授業を行う等、適切に行われている様に感じる。</u> <u>・一人ひとりに細かく配慮できているとは感じられない。</u> <u>・実践的な場を設けており、個々の希望に応じた指導ができていると感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-8 生徒・学生の授業評価とその反映	4 (3名) 3 (3名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.3 点
委員コメント <u>・実習による公欠が多く不公平さを感じる。課題未提出や出席しない学生への評価が難しく、こちらからは何もできないのがもどかしい。</u> <u>・授業で点数をつける必要があるのか疑問に思う。</u> <u>・客観的な評価方法が確立されており、適切に学生を評価している様に感じる。</u> <u>・実技以外の意欲も評価対象になっていることを改めて知った。</u> <u>・実習等により一年間顔を見ない学生に対しての評価など、評価の基準に無理がある場合もある。</u> <u>・適正な評価方法である。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-9 卒業生・企業等の評価と活用	4 (2名) 3 (5名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.3 点
<p>委員コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内オーディションで個人評価をもらえることはとても良いと思う。 ・公開オーディションの企業評価は学生に対してのものだと思うので、学校に対しての意見・評価も入手し活用することが望ましいと思う。 ・学内公開オーディションで学生評価を行い、その評価を学生へフィードバックする素晴らしいシステムであるが、2年生はフィードバックを有効利用することが難しい為、オーディションの開催時期もしくは開催回数を検討しても良いのではないかと感じる。 ・自分を客観的に見る事が出来る、良い機会になっていると思う。演劇には演劇、音楽には音楽に特化した方から評価を受けられるように工夫してほしい。 ・公開オーディションは素晴らしいと思うが、企業が求める人材のピックアップと学生への情報共有など改善点は多くあると思う。年間2回あってもいいのではないかと。 ・学内のオーディションで多くの企業からの評価が得られることは絶好の他己分析の機会にもなったと考えられる。是非、継続してほしい。 		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-10 成績不良者への対応	4 (3名) 3 (2名) 2 (2名) 1 (0名)	平均 3.1 点
<p>委員コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な理由で授業に出てこなくなる学生がおり気がかりである。 ・保護者ではなく、学生本人と連携すれば良いと思う。 ・学科担当制度により、きめ細かな対応が出来ている様に感じる。 ・学科担当者の入れ替わりが多く、引き継ぎにスムーズさが求められる。 ・適切に対応できていると感じる。 		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-11 学則・細則・内規に準拠した評価	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・客観的な基準に従い適切に評価が行われている様に感じる。</u> <u>・適正に行われている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-12 各成績判定者の審査基準、意思の統一	4 (2名) 3 (5名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.3 点
委員コメント <u>・実際に実技評価点をつける講師の基準・意思統一も必要であると思う。</u> <u>・教職員による成績評価会議を行う等、適切に行われている様に感じる。</u> <u>・審査の基準が数回の会議によって確認されており、適切である。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-13 評価の客観性・妥当性・信頼性・公平性	4 (2名) 3 (4名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・様々な変更点の連絡等、できる限り早めに知ることができると良い。</u> <u>・客観的な基準に従い学生を評価できている様に感じる。</u> <u>・各授業の講師も評価に加わる事で更に平等に評価されるので、適切に思う。</u> <u>・適切に行われている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-14 年度別合格率の推移、問題点の把握と対策	4 (1名) 3 (3名) 2 (3名) 1 (0名)	平均 2.7 点
<p>委員コメント</p> <p>・資格を取得して、自分の仕事にどう活かせるのか具体的に示してあげた方が良いのではと思う。又、実際にその資格を得ることで、将来の仕事にしていける学生がいても良いと思う。</p> <p>・現状、資格取得が可能な講座としてヨガインストラクターや整体師の授業を開講しているが、自身の体のケアが目的なのであればコンディショニングやセルフケアに特化した授業が本来必要であってそもそも目的にあっていないのではないか。</p> <p>・資格取得が目的では無い為に取得率が低いのは仕方がないが、「何の為」という部分の周知が出来ていれば必要性や重要性が学生にも伝わり、尚良いかと感じる。</p> <p>・「今後の自身の体のケガの為に」というよりは、「業界に行けなかった時のための資格」と捉えている学生が多く、受講者が少なかったのではないか。</p> <p>・資格の取得という目標が設定されることで、自身の体のケアについてより真剣に取り組むことになり、大変有意義な取組であると考える。</p>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-15 不合格者への対応	4 (1名) 3 (5名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.0 点
<p>委員コメント</p> <p>・資格取得が目的ではないが、受験したということは資格の重要性を感じての事かと思うので、何か対応はあった方が良いと感じる。</p> <p>・特に問題なし。</p>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-16 専任教員と非常勤講師との数的・男女のバランス	4 (3名)	3 (1名) 2 (2名) 1 (1名) 平均 2.9 点
委員コメント <u>・男女比は偏り過ぎなければほとんど気にならない。</u> <u>・男女のバランスよりも教員をもっと増やした方が良い。仕事が回っていない時がある。</u> <u>・専任教員の数が非常に少ないように感じる。非常勤の場合、学生との関りも短期間となるので細やかな対応が難しい場面もあるかと思う。その観点から専任の教員が、もう少しいると良いと感じる。</u> <u>・男女のバランスが6：4というのが適正なのか分からないが、不便に感じたことはない。</u> <u>・専任教員数や業務量について、現状適切とは思わない。</u> <u>・特に問題なし。専門的な授業ばかりなので、専任教員の少なさは致し方ないと思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-17 教員の平均年齢とバランス	4 (2名)	3 (4名) 2 (1名) 1 (0名) 平均 3.1 点
委員コメント <u>・良いバランスだと思う。</u> <u>・先生方の年齢が若いことで生徒は話しかけやすく、質問もしやすい環境となっている。</u> <u>・適切であると思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-18 1人当たりの担当授業時間数の点検	4 (3名)	3 (3名) 2 (1名) 1 (0名) 平均 3.3 点
委員コメント <u>・講師の中では複数科目に精通している方もいらっしゃると思うので、今後カリキュラムを拡充する際には複数科目、複数授業を受け持つ方を増やしても良いと思う。1人当たりの時間数は現状少ないかと思う。</u> <u>・適切な授業時間だと思う。</u> <u>・必要であれば良いと思う。</u> <u>・適切であると思う。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-19 担当業務の内容と全体のバランス	4 (0名) 3 (3名) 2 (4名) 1 (0名)	平均 2.4 点
<p>委員コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師料、授業料、奨学金等本来であれば教員ではなく専門部署を組織して行うことが望ましいと思う。教員は学生と講師を相手に一番時間を使える業務量であるべきと考える。 ・1人の職員が抱える業務量が多いように見える。そうすると個別の相談をしにくい場面も出てくるので、もっと分担して欲しい。 ・専任教員の人数が少なく業務過多になる可能性があるように感じる。 ・働き方改革は教員にも必要だと思う。先生方が楽しんで働く事で、校内の雰囲気もより良くなると考える。 ・専任教員の業務バランスと共に情報共有が必要。専任教員数を増やし、チーム化して欲しい。 ・業務量のバランスについては臨機応変な対応が望ましい。 		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-20 定期的な人事考査の実施	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
<p>委員コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切に行われていると感じる。 ・設定した目標が意識できるので適切と思う。 ・適切であると考えてる。 		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-21 教員の教育能力開発への取組状況	4 (1名) 3 (5名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.0 点
<p>委員コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務量を見直して、教員の教育にも時間を使えるようにすることが良いと思う。 ・外部研修に参加する等、適切に行われている様に感じる。 ・なるべく時間外勤務にならないように研修を設定する。 ・専任教員として必要な知識の強化をお願いしたい。 ・適切である。学内の研修等の充実により、授業等にも直結していくと考える。 		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-22 教員 1 人あたりの学生数の割合	4 (3 名) 3 (3 名) 2 (0 名) 1 (1 名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・偏りがあるように思う。</u> <u>・専任教員 1 人あたりの学生の人数は適切だと思う。</u> <u>・人数的には負担は少ないように思うが、十人十色の学生の対応は苦勞が多いと思う。</u> <u>・学生への細やかなケアも含め、1 人あたりの人数をもう少し考えて欲しい。</u> <u>・個々にまで目が行き届く割合であり、適切である。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-23 職員の人数並びに年齢構成、男女のバランス	4 (3 名) 3 (3 名) 2 (0 名) 1 (1 名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・若い職員も入っても良いと思う。</u> <u>・良いバランスだと感じる。</u> <u>・違和感なし。</u> <u>・現状の職員数が適切とは思わない。</u> <u>・特に問題なし。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-24 担当業務の内容と全体のバランス	4 (2名) 3 (3名) 2 (2名) 1 (0名)	平均 3.0 点
委員コメント ・誰がどの担当業務なのか、講師側から非常に分かりにくかった。本年度になり少し変わってきたと思う。分かりやすくなった。 ・なるべく分野ごとに分業することが望ましいと思う。 ・教員を兼任とまでになると業務負荷が大きいように感じる。 ・少しでも負担が少なくなるように検討してあげてほしい。 ・専任教員が担当する業務の明確化と、教員間でさらに情報共有に努めて欲しい。 ・定期的に検討されており、適切である。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-25 定期的な人事考査の実施	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・定期的に管理職と面談を行う等、適切に行われている様に感じる。 ・目標の再確認につながるので適切だと思う。 ・適切であると考える。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
3-26 各職員の意思疎通（報告・連絡・相談）	4 (2名) 3 (1名) 2 (3名) 1 (1名)	平均 2.6 点
委員コメント ・一人当たりの持ち業務量が多く多岐に渡っていることから、引き継ぎ等を徹底し、全員が常に全体の流れを把握できる仕組み作りが必要だと思う。 ・職員の情報共有をしっかりと行ってほしい。 ・月に2回程度の会議では情報共有の場としては少ないように感じる。 ・報・連・相は何に対しても必要だと思うので、今後も意識して行っていくことが大切。 ・定期的に共有の場が設けられており、適切である。		

IV. 学修成果

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
4-1 就職・資格取得・中退予防等の取組が適切か	4 (1名) 3 (1名) 2 (5名) 1 (0名)	平均 2.4 点
<p>委員コメント</p> <p>・中退予防について、実習を公欠と認めており、外で活躍することに重きを置いてしまっている学生が多いように思う。学生、保護者、講師、教職員がより連携すべきと考える。</p> <p>・就職、資格取得について、記載の取り組みは適正と感じる。就職口について、学生自身ももっと積極的に探したほうが良いと思う。</p> <p>・面談の回数と内容が、やや不適切のように思う。</p> <p>・外での活動が就職につながれば、休んでもよいと思う。</p> <p>・中退予防につながる授業時間や授業回数の見直しが必要だと思う。</p> <p>・授業数が少ないような気がする。授業数が増えれば中退率も下がると思う。</p> <p>・進路に直結する実践的な取組がなされており、いずれも適切である。</p>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
4-2 動向分析	4 (1名) 3 (4名) 2 (2名) 1 (0名)	平均 2.9 点
<p>委員コメント</p> <p>・今後は卒業後の離職率についての動向を追っていくことが必要だと思う。</p> <p>・進路のミスマッチがおきていないか等を度外視すれば非常に良い就職率だと思う。</p> <p>・就職⇒就職先・プロダクション所属等の内訳が見られると良いと思う。</p> <p>資格⇒自分自身のケアの為という意識が浸透していないように感じる。</p> <p>退学⇒授業数が少ないと感じることが中退率に影響しているように思う。</p> <p>・高い就職率であると感じる。</p>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
4-3 中途退学への対応	4 (1名) 3 (5名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.0 点
<p>委員コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中途退学者が出た際、必要な情報共有ができていなかった場面があったので、やや不適切に感じる。 ・中途退学についてはそれに至った動機が最も大切だと思うのでしっかりとヒアリングを行う必要があると思う。 ・三者面談を行うなど適切に対応されているように感じる。 ・家族の同意もあり、中退を選択した者を引き留める必要はないと思うが、見直す部分があるときは良くなる方向に考えてほしい。 ・専門的な学校である分、進路変更によるものなど、致し方ない部分もある。対応としては適切である。 		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
4-4 卒業生の活躍の状況	4 (2名) 3 (1名) 2 (4名) 1 (0名)	平均 2.7 点
<p>委員コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇団へ進路を決める学生が他校に比べ非常に少ない。また、その後も同じところで活動しているのかよく分からないのが残念。 ・卒業生の活躍について卒業後1年間は、少なくとも動向を追う必要があるかと思う。業界内で卒業生と出会うのが他校に比べて少ないように感じる。 ・進路のミスマッチが無いのであれば、素晴らしい状況だと思う。 ・進路先について、ある程度の情報を毎年度公開することが望ましいと感じる。 ・活躍状況と所属事務所の列記は意味が違いため、やや不適切と感じる。 ・進路先が多岐に渡っており、幅広い分野での活躍が伺える。 		

V. 生徒・学生支援

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-1 担任、担当者による進路・就職相談の実施	4 (1名) 3 (3名) 2 (2名) 1 (0名)	平均 3.0 点
委員コメント <u>・面談だけでなく日常から学生が積極的に相談できる環境(担当者)を整えることが必要だと思う。</u> <u>・担当教員との面談を実施する等、適切に対応できているように感じる。</u> <u>・定期的に個人面談の時間を作って頂き、進路について相談することが出来て良かった。</u> <u>・適切な対応であると感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-2 卒業後の進路調査の徹底	4 (3名) 3 (2名) 2 (2名) 1 (0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・どの学生がどういう所に進路を決めていったのか、どういう形でもいいので講師、在校生も知ることが出来たらよい。</u> <u>・卒業時だけでなく、継続した調査が必要と感じる。</u> <u>・卒業生全員から必ず最終進路報告を回収する等適切に行われていると感じる。</u> <u>・進路の内訳を知りたい。進路を決める前に、前年度の進路先がわかると良い。</u> <u>・適切に調査されている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-3 新たな求人の開拓のための活動	4 (1名) 3 (4名) 2 (2名) 1 (0名)	平均 2.9 点
<p>委員コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校ではやっていない取り組みという面を評価する。 ・プレシヤスオーディションは良い機会ではある。一社一社きちんと長く続けられるのかを判断する必要がある。 ・色々な評価を頂けて良い経験。開催時期をもう少し早めるなど、検討の余地あり。 ・増えた企業があるのはいいこと。作曲の企業だとダンスや演技は評価できなかった。学生をちゃんと評価できるように、学年毎や分類に分けるとよいのではないか。あと、フィードバックの時間も必要。 ・自発的に受けるオーディションの判断材料としても、プレシヤスオーディションの結果を活用させたい。 ・チャンスが多いのは良いこと。開催回数について、検討の余地があると思う。 ・参加企業が倍に増えたことで、学生の選択肢も広がり非常に良いことであると感ずる。 		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-4 カウンセラーによる学生相談室の設置 並びに相談システム	4 (2名) 3 (3名) 2 (2名) 1 (0名)	平均 3.0 点
<p>委員コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代のニーズに合わせていくなれば今後は学生のメンタルケアが課題の1つになると思う。これは専門の方が担当するのが望ましい。 ・現状の仕組みを変えずに、プラスαとしてカウンセラーを導入するのであれば、ほぼ適切と感ずる。 ・カウンセラーによる学生相談室が設置されていない為、設置が急がれる状況であるが、設置検討中との事で設置されない可能性もある為、十分とは言えない様に感ずる。 ・身内に相談できない心の悩みを抱える子どもが多いというニュースをよく耳にする。(虐待・ネグレクト・家庭環境等)時には相談システムが必要な場合がある。 ・ぜひカウンセラーの導入をお願いしたい。 ・担当教員だけでは手が回らない部分もあると思うので、相談システムの拡充を図る必要があると考える。 		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-5 相談者の守秘義務の徹底	4 (4名) 3 (2名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・学生本人とどこまで開示してよいかの確認を必ずした方が良いと思う。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・現状適切と感じる。</u> <u>・適切な対応であると考える。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-6 相談内容によるカウンセラーと教職員との連携	4 (2名) 3 (2名) 2 (3名) 1 (0名)	平均 2.9 点
委員コメント <u>・より迅速な対応ができるフローを構築する必要性があると感じる。</u> <u>・情報共有だけでなく専門家の意見も聞いた方が良い様に感じた。</u> <u>・現状適切と感じる。</u> <u>・適切な対応である。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-7 奨学金制度の整備	4 (2名) 3 (5名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.3 点
委員コメント <u>・とても良いと思う。新聞奨学生に関しては他校でも授業に来られなくなってしまう学生が出ているのでフォローが他の制度より必要だと思う。</u> <u>・複数の奨学金制度を案内しており状況に応じて選択可能であるので適切に行われていると感じる。</u> <u>・現状適切と感じる。</u> <u>・適切であると思う。保護者との連携も是非お願いしたい。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-8 奨学金貸与者の推移	4 (5名) 3 (2名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・日本学生支援機構奨学金以外のものも入学前のガイダンスで告知できると尚良い様に思った。</u> <u>・子どもが何人もいる家庭では、学費は大きな負担となる。奨学金は利息も低く、無理なく返済していけるし、集めて返済することもできる為とても助かる。</u> <u>・学生への周知もきちんとなされており、適切である。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-9 学生寮の有無、管理・サービス状況	4 (3名) 3 (3名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.3 点
委員コメント <u>・適切に対応されている様に感じる。</u> <u>・遠方からの体験授業や学校見学の際に学生会館を活用出来たら学生獲得に繋がっていくのではないかな。</u> <u>・適切な対応であると考えている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-10 定期健康診断の実施及び受診項目	4 (4名) 3 (3名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.6 点
委員コメント <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・学校生活を送る上で、自分の身体を知って健康管理をしていくのは大切なことだと思うので現状適切と感じる。</u> <u>・適切に実施されている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-11 卒業生のフォローアップ状況	4 (0名) 3 (3名) 2 (3名) 1 (1名)	平均 2.3 点
委員コメント <u>・同窓会組織等しっかり作ってもらえたら。そして在校生や職員とも共有出来たら良いと思う。</u> <u>・今後強化していくべき項目だと思う。</u> <u>・同窓会組織づくりを検討されているとの事で今後に期待したい。</u> <u>・卒業生の教室利用の制度について良く分からないので、適切とは感じない。</u> <u>・今後に期待したい。</u> <u>・現状適切であるが、同窓会組織の運営により、今後に期待していきたい。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
5-12 卒業生や就職先等関係者の意見聴取等の活用状況	4 (2名) 3 (4名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・意見聴取は適宜ではなく必須で行うべきと感ずるため、やや不適切と感ずる。</u> <u>・現状でも適切に行われている印象だか、OB・OG 訪問等も定期的開催できると学生のモチベーション維持にも繋がってくると思う。</u> <u>・今後も続けて下さい。</u> <u>・関係企業との連携がなされており、適切である。</u>		

VI. 教育環境

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-1 施設の使用状況	4 (5名) 3 (2名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・ほぼ適切と感じる。</u> <u>・適切に行われている様感じる。</u> <u>・問題なく教室利用が出来ている。</u> <u>・個人レッスン(稽古)ができる環境はすばらしい。</u> <u>・学生は研鑽に努めることができ、整った環境である。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-2 普通教室、実習室の面積(全体、学年1人あたり)	4 (3名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント <u>・ほぼ適切と感じる。</u> <u>・適切に行われている様感じる。</u> <u>・学生数、活動域等で適切だと思う。</u> <u>・適当であると考える。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-3 保健室・休憩室の整備	4 (5名) 3 (2名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・適切に行われている様感じる。</u> <u>・いざという時のために必要だと思うので適切と感じる。</u> <u>・適切であると考える。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-4 自学・自習室の有無	4 (4名) 3 (3名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.6 点
委員コメント <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・最新の設備が整った環境での作業は進めやすく満足。</u> <u>・適切であると考えている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-5 各室の安全性、セキュリティ対策の状況	4 (5名) 3 (2名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.7 点
委員コメント <u>・ほぼ適切と感じる。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・ICカードの活用率が低くなっていると思うので、検討が必要と感じる。</u> <u>・万全な対策がなされており、適切である。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-6 卒業生の利用希望への対応	4 (6名) 3 (1名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.9 点
委員コメント <u>・適切と感じる。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・適切と感じる。</u> <u>・適切な対応である。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-7 教育用機器備品の整備、充実度	4 (4名) 3 (2名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.4 点
委員コメント ・不具合があった際のバックアップやメンテナンスについても対応フローの明確化をするとより良いと思う。 ・適切に行われている様に感じる。 ・とても満足している。 ・たとえばワイヤレスピンマイクなど更新した方が良い備品もあると思うので、やや不適切と感じる。 ・整備、定期的な見直しがなされており、適切である。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-8 視聴覚、情報機器の整備、充実度	4 (5名) 3 (2名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.7 点
委員コメント ・時代ニーズに合わせ、どの教室でも PC から映像、画像等の投影設備の拡充が今後必要になってくるかと思う。() ・適切に行われている様に感じる。 ・とても満足している。 ・適切に行われている。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-9 学校行事による学生間、学年間の連帯意識の育成	4 (1名) 3 (5名) 2 (0名) 1 (1名)	平均 2.9 点
委員コメント ・学生のチームワークはとても良いと感じる。 ・学年を跨いで学生同士の交流があり適切に行われている様に感じる。 ・まず全員が揃うことが少ない中でまとめるのはとても大変だったようだ。 ・学生リーダーと教員の連携がとれていないと感じる場面が見受けられるため、適切とは思わない。 ・適切に運営され、連帯意識の育成に結びついていると感じる。		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-10 学校行事による学生、教職員間の連帯意識の育成	4 (2名) 3 (4名) 2 (0名) 1 (1名)	平均 3.0 点
委員コメント <u>・学校行事について情報伝達が遅い時があったため、適切とは言い難い。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・問題があった都度、先生と話し合いアドバイスをもらいながら一つ一つ解決し乗り切ることができたため、適切と感じる。</u> <u>・学生リーダーと教員の連携が取れていないと感じる場面が見受けられるため、適切とは思えない。</u> <u>・適切に対応がなされていると感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-11 担任制による学生への対応の徹底と認識	4 (4名) 3 (2名) 2 (0名) 1 (1名)	平均 3.3 点
委員コメント <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・困ったときはすぐにサポートして頂き、とても心強かった。</u> <u>・学生リーダーと教員の連携が取れていないと感じる場面が見受けられるため、適切とは思えない。</u> <u>・適切な対応がなされていると感じる。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-12 正課授業内に発生した事故への適切かつ迅速な対応	4 (4名) 3 (3名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.6 点
委員コメント <u>・事故や傷病者に備えて、学生、教員共に応急救護の知識や CPR の実技等を身につける必要があると感じる。また AED の設置場所の明確化も必要。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・何事もなく良かった。</u> <u>・迅速に対応ができており、適切である。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-13 防災の対応マニュアルの作成と適切な対応	4 (2名) 3 (5名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.3 点
<p>委員コメント</p> <p>・マニュアルは常に人目の付く場所且つ誰でも閲覧可能な状態が望ましいと思う。特に災害時の自衛組織図等は常に学生も目の付く場所に掲示することが尚よいと思う。</p> <p>・適切に行われている様に感じる。</p> <p>・早急に備える必要があると考える。</p> <p>・マニュアルが作成されており、不測の事態が生じた場合でも冷静に対処できると考える。</p>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-14 防災訓練等による学生への防災対策の周知	4 (5名) 3 (1名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.6 点
<p>委員コメント</p> <p>・消防設備について入学時に全学生へ周知する必要があると感じる。いざという時、これらの設備が使えなければ人命に関わる。</p> <p>・適切に行われている様に感じる。</p> <p>・実際に体験することで緊急時に慌てずに行動が出来ると思う。</p> <p>・適切に行われている。</p>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
6-15 防災訓練の実施状況及び方法	4 (4名) 3 (2名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.4 点
<p>委員コメント</p> <p>・防火訓練の中で舞台公演中の災害発生を想定した訓練を取り入れる必要があると感じる。学生の他に来場者の避難誘導が必要になり、日常の学校運営とは別の対応が必須となる。</p> <p>・適切に行われている様に感じる。</p> <p>・最低年に一度、再確認することが大切なので、適切と感じる。</p> <p>・年に一回は少ない。</p> <p>・適切に行われている。</p>		

VII. 生徒募集

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
7-1 広報活動開始の時期、方法	4 (2名) 3 (4名) 2 (1名) 1 (0名)	平均 3.1 点
委員コメント <u>・ホールでの外部公演時や施設貸出等でもアピールできるチャンスがあると思うので、今後さらに広報でも活用していけたらいいのではと思う。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・もっと広く多くの方に本校を知ってもらいたいと思う。</u> <u>・パンフレット、ホームページの改変がされており、インターネット出願の方法も充実しているため、適切である</u> <u>と考える。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
7-2 誇大広告の自己点検（学校案内等）	4 (2名) 3 (3名) 2 (2名) 1 (0名)	平均 3.0 点
委員コメント <u>・HP、パンフレットの山王ヒルズホール写真は、最新のものに変更した方が良いかと思う。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・演劇の専門学校のイメージが強く、やや不適切と感じる。</u> <u>・年間授業数の少なさが広告内容と比較して気になるので、やや不適切と感じる。</u> <u>・見直しがされており、適切である。</u>		

VIII. 財務

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
8-1 学校経営における適正度の点検	4 (4名) 3 (3名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.6 点
委員コメント <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・第三者を入れることで、透明性を図ることが出来るので適切。</u> <u>・適正に行われている。</u>		

IX. 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
9-1 法令遵守の状況について	4 (4名) 3 (3名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.6 点
委員コメント <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・時代の流れなのか社会の目が厳しくなっていると感じるので適切。</u> <u>・適正に行われている。</u>		

X. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
10-1 教職員・学生・生徒が活動するための学校の支援体制	4 (4名) 3 (3名) 2 (0名) 1 (0名)	平均 3.6 点
委員コメント <u>・地域とのふれあい、支援を多くしていくのはとても良いことだと思う。卒業公演等も観に来てもらえるように宣伝を今まで以上にしても良いのでは。</u> <u>・地域貢献には特に積極的な印象がある。</u> <u>・情報伝達が遅い時がある様に思う。</u> <u>・適切に行われている様に感じる。</u> <u>・ボランティア活動やイベントに参加することで、外部へ本校を知って頂くきっかけになってほしい。</u> <u>・積極的な支援体制が整っており、適切である。</u>		

XI. 国際交流

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
11-1 留学生の受入れ・派遣のための体制整備	4 (5名)	3 (2名) 2 (0名) 1 (0名)
平均 3.7 点		
委員コメント <u>・留学生の数はそんなに多い方ではないと思う。人数が今後増えた時にどうするのか問題はあると思う。</u> <u>・適切に行われている様を感じる。</u> <u>・良い体制だと思う。</u> <u>・適切に行われている。</u>		

評価項目	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
11-2 国際交流の枠組	4 (2名)	3 (5名) 2 (0名) 1 (0名)
平均 3.3 点		
委員コメント <u>・適切と感じる。</u> <u>・適切に行われている様を感じる。</u> <u>・ほぼ適切と感じる。</u> <u>・海外での研修は広い視野を持つことができ、非常に有益であると考える。</u>		

学校関係者評価委員会 会議議事録（第1回）

開催日時：令和2年1月28日（火曜日）18：30～20：30（2h）

場所：日本芸術専門学校 第6教室

出席者：

① 委員

関係業界	高山 佳音里
関係業界	ひの あらた
関係業界	大西 伸行
卒業生	竹下 恭平
在校生保護者	水谷 待子
在校生	山村 菜海

② 学校

日本芸術専門学校 校長	武田 光弘
教務部部长 兼 企画営業部部长	山口 忠生
企画営業部課長	西垣 俊紘
事務局課長	広井 里佳
総務部課長	鈴木 秀範
教務主任	中迫 まい子

（参加者合計名）12名

（都合により欠席） 大島 幾雄 伊藤 雅文

司会：中迫 まい子

議事録：小泉 恭野

1 校長挨拶及び趣旨説明

※武田

資料の確認を行った後、今回の委員会の目的説明を行った。

2 委員及び教職員紹介

※武田

本校の職員紹介を行った。

3 委員長の選任

※武田

「本校で長い間、舞台演技のご指導をしていただいている高山先生にお願いをしたい」と話があり、満場一致で高山先生が委員長に選出された。

4 学校関係者評価事業計画の説明

※中迫

事業計画の内容とスケジュール、実施予定内容について、資料に基づき説明。

5 自己評価概要説明

※中迫

自己評価項目及び基準、重点項目について説明。

6 意見交換

説明についての質疑応答、重点項目について討議。

7 今後のスケジュール確認

次回の会議日程 2月27日(木) 18:30～

第3回 会議日程 3月23日(月) 15:00～

8 施設見学

保健室⇒第一教室⇒アネックス⇒地下ホールの順見学を行った。

以上

◆重点項目についての討議内容に関して

武田より、それぞれの項目について説明があり、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。以下にその記録を報告する。

重点項目①

Ⅲ-3 カリキュラムに対する学生・卒業生の評価

武田：

昨今の学生・エンターテインメント業界のニーズに合わせたカリキュラムに合わせたカリキュラムを作成した。今年度は、2.5次元ミュージカルを学ぶ業界のミュージカルへの人気傾向に沿ったカリキュラム編成としている。

委員：

・評価としては2点。台詞を覚えるようなストレート演技のような、基本をしっかり学べる授業が必要だと考える。また入学後、コース選択の変更を早めに行う必要があると思う。

・評価としては3点。ミュージカルは歌・ダンス・演技の3つの要素が必要である。その中でそれぞれに特化した授業が必要と感じる。毎日、発声など基本をしっかり練習する事で力が身に付く。2年間で滑舌がしっかりするなど基本を身に付けてほしい。ダンス・バレエ・発声など基本を午前に行い、午後にそれぞれのコースに分かれて授業を行う事で、より技術が身に付くのではないかと。

・評価としては3点。毎年、ニーズに合わせてカリキュラムを変更しているところを評価した。2.5次元が多い仕事をしているが、裏方の仕事をする人が非常に少ない。裏方でも演技が出来ないと難しい。

今後は、裏方に回れるカリキュラムにすると他校と差別化できる。

- ・ミュージカルのカリキュラム構成を考えれば3点。歌の授業はレベル分けされているので、ダンスの授業も同じようにレベル別があった方が、それぞれの力に合わせて学ぶことが出来る。

- ・評価としては3点。ミュージカル授業では評価できる。その他は考える必要がある。大学のように、講師を活用し、授業以外で相談できる環境があると良いのではないかと。ヒップホップ・タップダンスもトータルにできる人が優遇される。どんなジャンルでもこなせるカリキュラム構成が必要である。

- ・評価としては2点。出席する人数が少なすぎて、作品作りなど苦勞する場面があるので、その点も改善策を考えてほしい。

重点項目②

IV-1 就職、資格取得、中退予防等の取組が適切か

武田：

就職支援では、学内での公開オーディション、企業面談の開催、学内企業説明会の開催、株式会社リクルートによるマナー講座・面接模試、担当教員による個人面接等を行った。資格に関しては、整体師、ヨガインストラクターの資格取得が出来る授業科目を設置。メンタルケア及び心と体のバランス調整にもつながり、学生からの評価が高かった。

中退予防の取組では、担当教員が修学上または進級の不安事項について相談を受けた。また、保護者との連携を心掛けた。

委員：

- ・評価は2点。授業に出席せずに学外自主公演に夢中になっている学生が多く、長期休みもあるため、居場所がないという理由でやめてしまう学生が多いように感じる。発達障害や悩みを抱えている学生がいても巻き込んでいく学生が多いのが良い所ではある。授業の中で学生に居場所を作る事で中退を防げると考える。

- ・評価は2点。授業数が少ないような気がする。授業数が増えれば中退率も下がると思う。居場所は授業の中で作れると思う。

- ・評価は3点。外での活動が就職につながるのであれば学外活動も良いとは思う。学生の主体性を促す環境があることを評価する。

- ・評価は2点。授業数をもっと増えれば、それが中退予防にもなると思う。卒業公演の稽古時期と学生それぞれが抱える仕事が被っている。時期が被らないように配慮することによって、学生の目的喪失を防げるのではないかと。

- ・評価は2点。資格取得を目指す学生は目的を分かっているのかが疑問である。就職を考えるとデビューが目標だと思うが、将来の目的が変更した場合、どのように指導していくのかが大事だと思う。

- ・評価は2点。授業数が少ない。目標を通知表のように、見える化することによって、どこまで到達できているか分かりやすくすることで、中退を防止できると考える。

重点項目③

V-3 新たな求人開拓のための活動

武田：

学内での外部向け公開オーディションや企業説明会に向け、新たな企業参加数を増やすための働きかけを行った結果、昨年度のオーディション参加企業 50 社がのべ 100 社に増えた。

委員：

・評価は 3 点。プレシヤスオーディションはストレートプレイを目指す学生を考えると対象劇団数が少ない気がする。他校ではやっていない取り組みを評価する。プレシヤスオーディションは、頑張りたいけど自信のない学生を成長させるきっかけとなる行事である。

・評価は 3 点。参加企業数を増やす取り組みを評価する。チャンスが多いのは良いこと。参加企業数が増えるのは良いことだが、企業の下調べ、オーディションに向かうまでの過程が大事。オーディションに向かうまでの学生の様子が見えると更に良くなると思う。

・評価は 2 点。増えた企業があるのは良い事だがフィードバックの時間が必要と考える。音楽関係の企業だとダンスや演技は評価できなかつたので、学生に正当な評価が出来るように、学年毎や分類に分けたプレシヤスオーディションにすると良い。

・評価は 3 点。プレシヤスオーディションは色々な評価を頂けて良い経験になる。企業を調べるのは学生自身がやらなければいけない事と分かっているが、学校側も知っている情報を学生に伝える事によって、より良い取り組みになると思う。

・評価は 3 点。プレシヤスオーディションに対する学校の努力を評価する。今後は、数だけでなく、一社一社きちんと長く続けられるのかを判断する必要がある。

・評価は 2 点。この事務所に誰が何人いるのかを開示することで学生も安心。各プロダクションでは養成してデビューさせるのが一般的。どこの事務所に、卒業生が何人所属しているのかを開示する事で、更に良い行事になる。

■重点項目終了後、委員の方から評価項目に関して 2 点の質問があった

①それぞれの立場から見た意見でよいのか。⇒客観的な視点で意見をもらいたい。

②点数は大丈夫なのか。低すぎたり高すぎたりした場合何か影響することがあるのか。

⇒そのままの意見でお願いしたい。

今回の会議では、自己点検の中から 3 項目について、委員に評価を頂いた。残りの項目は、評価用紙に点数とコメントを記入して 2 月 10 日(月)までに郵送してもらうようお願いをし、第 1 回学校関係者評価委員会を終了した。

以上

学校関係者評価委員会 会議議事録（第2回）

開催日：令和2年2月27日（木曜日）18：30～19：30（1h）

会場：日本芸術専門学校 第6教室

出席者：

① 委員

関係業界	高山 佳音里
関係業界	大西 伸行
卒業生	竹下 恭平
在校生保護者	水谷 待子
在校生	山村 菜海

② 学校

日本芸術専門学校 校長	武田 光弘
事務局長	伊藤 雅文
教務部長 兼 企画営業部長	山口 忠生
企画営業部課長	西垣 俊紘
事務局課長	広井 里佳
総務部課長	鈴木 秀範
教務主任	中迫 まい子
募集戦略室室長	福田 潤

（参加者合計名）13名

（都合により欠席） 大島 幾雄 ひの あらた

司会：中迫 まい子

議事録：広井 里佳

1. 冒頭挨拶及び学校関係者評価の趣旨説明

武田：

挨拶及び、改めて学校関係者評価についての趣旨説明を行った。

2. 学校関係者評価報告書の内容の審議

中迫：

○本会議の流れを説明。

【2019年度 学校関係者評価 報告書】について、小項目ごとに評価結果の確認を行い、その中で学校側が割愛・修正した箇所も改めて委員の皆様を確認する旨、説明。

○本題。以下手順と流れ。

小項目ごとに評価結果の数字を確認。

↓

山口：

学校側で割愛・修正した箇所がある項目については説明・確認を行った。

↓

中迫：

最後に大項目ごとに異議がないか確認を行った。

大項目全てにおいて、特に異議はなかった。

山口：

3-2 の項目のみ、学校側から授業数、行事についての補足説明を行った。

これにより、2019 年度学校関係者評価報告書の内容が確定した。

中迫：

報告書の最終版を改めて郵送する旨伝えた。

3. 1 回目、2 回目の学校関係者評価委員会で感じたことなど、委員の方にいただいた感想

委員：

- ・初回ということもあり、報告書の書き方に戸惑ったが、このような機会をもとに良い学校になればいいと思う。
- ・保護者として、報告書をどう書いていいか迷ったが、いろいろな情報を知ることができて良かった。
- ・このような会議に参加することができて良かった。
- ・今後有用な意見として活用してほしい。
- ・講師、学生、保護者と交流できる良い場だと思う。評価するだけでなく、ここを変えてほしいという意見が今実際に多くあるので、今後不満を言うだけでなく意見交換の場にしていきたい。

4. 次回、第 3 回開催日についての説明

中迫：

第 3 回開催日は 3 月 23 日（月曜日）15：00 を予定している旨、また第 3 回では、評価結果も踏まえ、次年度の本校の取組について、次年度の学校関係者評価委員会のおおよそのスケジュールについての説明を予定しており、意見交換をしたい旨案内した。

以上をもって、第 2 回学校関係者評価委員会を終了した。

学校関係者評価委員会 会議議事録（第3回）

開催日：令和2年3月23日（月曜日）15：00～16：00（1h）

会場：日本芸術専門学校 第6教室

出席者：

① 学校関係者評価委員

関係業界	高山 佳音里
関係業界	ひの あらた
関係業界	大西 伸行
在校生保護者	水谷 待子
在校生	山村 菜海

② 学校教職員

校長	武田 光弘
事務局長	伊藤 雅文
教務部長 兼 企画営業部長	山口 忠生
企画営業部課長	西垣 俊紘
事務局課長	広井 里佳
総務部課長	鈴木 秀範
教務主任	中迫 まい子
教務	小泉 恭野
募集戦略室室長	福田 潤

（参加者合計名） 14名

（都合により欠席） 大島 幾雄

司会： 福田 潤

議事録：小泉 恭野

1. 学校関係者評価委員会の振り返り

司会より第3回目の議題を説明した。その後評価委員から振り返りの意見を頂いた。

1-1 開催時期に関して

- ・卒業公演の時期も被っていて時期的に厳しかった。また、補習などもあり、日程が組みにくかった。時期的には早く、春休みに行ってくれるとありがたかった。
- ・どの時期でもよいが、まとめではなく中間で出来るのといいのではないか。

1-2 評価作業量に関して

- ・多いと感じる。専門外の質問も多く判断の基準が難しかった。

- ・質問に対して何を聞かれているか分からない状態で、答えになっているか分からなかった。

1-3 進行の適切さに関して

- ・質疑応答に時間がかかっていた。質問事項があらかじめわかっていたらスムーズ。
- ・1ヶ月に1回のペースが適切かわからないが、筋道は適切だった。
- ・いろいろな立場の意見を聞いてくれありがたかった。

2. 日本芸術専門学校の次年度の取組

武田より挨拶があり、その後、次年度のカリキュラムに関して中迫が説明を行う。
最後に、留年・休学などの学則について山口より説明を行った。

3. 次年度の学校関係者評価委員会のスケジュール

司会より次年度のスケジュール説明と評価委員の任期の説明を行った。

- ・次年度は全二回行う。
- ・卒業年次生の保護者と卒業生は評価委員の条件から外れ、終了となることを伝えた。

4. その他

5月ぐらいまでを目処に、日本芸術専門学校のホームページ情報公開を行う事を伝えた。

最後に、武田より評価委員会へのお礼の挨拶があり第3回学校関係者評価委員会を終了した。

以上